<その他>	秋田しづか様	稲垣こうじ様	おくざわ高広様	木目田ひでお様	戸塚正人様
Q.入札不調が続く工芸美術館建設進めるべきだ？（○か×で。○ならどうやって？×なら代替策を）	× 度重なる入札不調や契約辞退があり、契約辞退した理由は「近隣住民の反対運動」であった。事業者に対して訴訟も起きている事案に対して、今後入札を行っても手を挙げる建設会社はない可能性が高い。一度白紙に戻して、住民や公園に関係する方々と、在り方を話し合うところからやり直したい。	× 現在の計画は無理があります。立地、規模、予算、住民の意見を聞きながら再検討します。	× 計画は見直し、約74億円の関連予算をゼロベースで再考。美術品は公共施設や学校に点在させるシティミュージアム構想を提唱	● 2000年代から博物館のあり方についての議論から20年近く検討され、市議会においても議決を繰り返してきたものを簡単に終わらせることはできないと考えます。いわゆる民意を得たものであります。仮称国際工芸美術館の建設が難しいとしても、博物館の後継建物を考えなければならない、いわゆる出口戦略をどう考えるのか。結果的に、建築費高騰のため仮称国際工芸美術館が難しくても、収蔵庫的なものを建築する可能性はあります。つまり、規模や機能を縮小する。	× 財政状況的に難しい状況であると判断します。